



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 45

May 2012

今号のトピックス

**会長および評議員選挙が公示されました！
皆様、投票しましょう！**

日中韓合同国際シンポジウムは 8 月 22-23 日に中国ハルビンで行われます！
野外研修会(妙高, 9 月)の参加申し込み受付が始まりました！
次回大会(2013 年)は千葉大学西千葉キャンパスで行われます！



目次

会長および評議員選挙公示	2
会長候補者の評議員会推薦について	3
新編集委員長あいさつ	3
諸報告	
日本植物分類学会第 11 回大会報告	4
2012 年度大会発表賞受賞者の決定	5
大会発表賞受賞者 喜びの声	6
庶務報告	8
2012 年度第 1 回評議員会議事抄録	9
2012 年度総会議事抄録	10
2012 年度事業計画および予算	12
お知らせ	
2012 年度日中韓合同国際シンポジウムについて	14
2012 年度野外研修会のお知らせ	15
2012 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ	16
日本植物分類学会第 12 回大会のお知らせ	16
第 13 回国際花粉学・第 9 回国際古植物会議合同会議のご案内	16
寄稿:「学名のラテン語(10)」	17
書評	18
日本植物分類学会選挙人名簿(2012 年 4 月現在)	20
会員消息	28



会長および評議員選挙公示

選挙管理委員長 坪田 博美

2012年12月末をもって、2011-2012年度の役員が任期満了となります。これにともない、次期会長および評議員の選挙を、学会会則12条および役員等の選出についての細則に従い、下記の通り行います。今回、会長はじめ役員会の意向により、これまでよりも少し早めに選挙を行うことになりました。これに伴い、公示から投票までがやや短い期間となります点をご了解ください。

この選挙で選出される会長および評議員には、学会運営や活動の舵取りをしていただくこととなります。大切な選挙ですので、学会員の権利である一票をぜひ投じて頂きますよう、会員のみなさまにお願いいたします。投票の締め切りは2012年6月30日(土)です。

なお、会則第13条3で定められているように、役員には在任期間に関する制限があります。今回の選挙では、以下の方に各役員の被選挙権がありません。投票用紙に記名されても無効になりますのでご注意ください。

会長の被選挙権なし：戸部 博

評議員の被選挙権なし(五十音順)：

五百川 裕、角野 康郎、瀬戸口 浩彰、藤井 紀行、遊川 知久

また、今回役員等の選出についての細則の第2条にもとづき、評議員会から会長候補者として以下の3名の方が推薦されています。なお、評議員会推薦の会長候補者以外の被選挙権をもつ会員に投票されてもかまいません。

評議員会推薦の会長候補者(五十音順)：角野 康郎、西田 治文、村上 哲明

選挙実施細目

1. 投票締切：2012年6月30日(土)(当日消印のものまで有効)
2. 投票用紙：投票には、ニュースレター本号に同封されている会長選挙投票用紙(紫色)と評議員選挙投票用紙(黄色)を使用してください。それ以外の用紙を用いた場合、無効となります。
3. 記入方法：ニュースレター本号の選挙人名簿をご覧になり、会長選挙投票用紙(紫色)に会長候補者1名を、評議員選挙投票用紙(黄色)に評議員候補者8名以内をそれぞれ記入してください。同姓あるいはよく似た名前の会員がおられます。投票に当たっては選挙人名簿を参照の上、氏名を略さずに記入してください。規定数を超えて候補者名を書かれた場合は、その票自体が無効となります。また、会員以外の候補者名を書かれた場合は、会員以外の部分のみが無効となります。
4. 投票用紙の郵送：記入後、投票用紙を二つに折り、同封の返送用封筒に入れて郵送してください。封筒には、ご自分の住所と氏名を必ず記入してください。封筒が同封されていないか、あるいは紛失した場合には、「会長・評議員選挙投票用紙在中」と朱書きした任意の封筒で、下記の投票用紙送付先まで郵送してください。その場合、切手代はご負担ください。なお、投票用紙の再発行はいたしません。
5. 開票：2012年7月12日(木)に票を開票します。開票場所は広島大学を予定しています。会員2名以上の立ち会いのもとに開票します。会員は開票に立ち会うことができます。立ち会いを希望される場合は、開票日時・場所の詳細を追って連絡いたしますので、選挙管理委員長までご連絡ください。
6. その他、不明な点などございましたら下記宛ご連絡ください。

投票用紙送付先および連絡先

〒739-0543

広島県廿日市市宮島町三ツ丸子山 1156-2 外

広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所

日本植物分類学会選挙管理委員長 坪田博美

Tel.: 0829-44-2025; FAX: 0829-40-2001; e-mail: chubo@hiroshima-u.ac.jp

会長候補者の評議員会推薦について

筆頭評議員 西田 佐知子

本学会では役員等の選出についての細則第2条に、「評議員会は若干名の会長候補を推薦することができる」と定めてあります。そこで本学会としては初めて、評議員会より下記のとおり会長候補を3名推薦します。なお、評議員会からの推薦は、学会員皆さんの推薦候補以外への投票を妨げるものではありません。どうぞ熟考の上、評議員会からの推薦候補である・ないにかかわらず、もっとも適任と思われる方に大切な一票を投じてください。よろしくおねがいします。なお、投票に関しては 2 ページからの「会長および評議員選挙公示」をご確認ください。

推薦する候補者(五十音順・敬称略)

角野 康郎 西田 治文 村上 哲明

新編集委員長あいさつ

編集委員長 田村 実

今年 4 月から日本植物分類学会の編集委員長(兼英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』編集担当委員)を務めることになりました。編集委員長としては約 3 年間、英文誌編集担当委員としては約 5 年 3 ヶ月間の長きにわたり『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』を支えてこられた永益英敏先生(京都大学総合博物館)の後任です。

『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』は、1932 年に京都大学理学部植物学教室をよりどころとして創立された植物分類地理学会の雑誌として出発しました。第 1 巻第 1 号は同年 4 月 20 日に発行され、原著及び講説として小泉源一先生、大井次三郎先生、北村四郎先生、田川基二先生が寄稿されました。第 1 巻第 1 号の編集責任者はよくわかりませんでした。同年 6 月 20 日に発行された第 2 号の編集幹事は大井次三郎先生でした。大井次三郎先生の後、編集幹事(後に編集委員長)は平野實先生、岩槻邦男先生、小山博滋先生、北川尚史先生、戸部博先生、岡田博先生、永益英敏先生等に受け継がれ、現在に至っています。

この 80 年の歴史をもつ『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』の発行が、今、遅れています。この発行の遅れを取り戻すことが、当面の私の課題です。このため、これまでの Editors(Editor-in-Chief を除く)は高宮正之先生(熊本大学)と綿野泰行先生(千葉大学)だけでしたが、新たに Editors に秋山弘之先生(兵庫県立人と自然の博物館)と黒沢高秀先生(福島大学)に加わって頂き、Editors を合計 4 人とすることによって編集体制を強化させて頂きました。

あとは、投稿論文不足をいかに解消するかです。『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』は、これまで日本の植物分類学を牽引してきた雑誌の一つで、そこには先輩方の熱意が息づいています。時代を超えて、世界の多くの植物分類学者に読まれ続けてきた雑誌でもあります。また、これからも、日本から世界に向けて植物分類学の何かを発信しようとした時、なくてはならない存在と思います。今後、『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』が順調に発展できますよう、会員の皆様方からのなお一層の積極的な御投稿をお願いする次第です。

諸報告

日本植物分類学会第 11 回大会報告

第 11 回大会準備委員長 高橋 晃

第 11 回大会を 2012 年 3 月 23 日(金)より 25 日(日)まで、大阪府吹田市にある大阪学院大学で開催いたしました。会期中は全国各地から当日参加者 45 名を含む 225 名の参加者(一般 163 名、学生 62 名)があり、多くの研究発表と活発な議論が行われました。大会準備委員会としては、まずまずの成功をおさめることができたのではないかと喜んでおります。遠路はるばるご参加いただいた皆様に深くお礼申し上げます。

会場として使用させていただいた大阪学院大学は施設が整っており、講演会場となった大教室だけでなく、受付、クローク、休憩室、ポスター会場など十分に余裕をもって大会を運営することができました。ポスター会場には玄関そばの広いアトリウムが使えたので、多くの人がポスターの前に集まって議論し合うにも余裕をもって行える空間が得られました。今回、他学会や研究会、民間の書店などいろいろな団体から多くの出店希望がありましたので、会場前のロビーに出店コーナーを設けました。書店の出店には分類学関連の多数の書籍が揃えられ、その場で見ながら求めることができて好評だったのではないかと思います。

1 年前に林一彦大会会長から、大阪学院大学で大会を開きたいのだが、人手がないので準備委員会をやってくれないかとのお話がありました。私の勤める兵庫県立人と自然の博物館には会員が 6 名いるので、みなで協力して開催しようということになりました。いざ準備を始めてみると、大阪学院大学からは会場使用料は無料で、しかも大会開催への補助もいただきました。また大学事務局の職員の方には会場設営準備から運営まで多大な協力をいただきました。大阪学院大学のこのような協力がなければ今回の大会は成功しなかったといえます。あらためてお礼申し上げます。

23 日から 3 日間の会期中に口頭発表 41 題とポスター発表 72 題の講演が行われました。そのうち口頭発表 17 題とポスター発表 36 題は大会発表賞にエントリーされたもので、これらエントリーの分をすべて第 1 日目に割り当て、またポスター発表の時間も十分にとる必要があります。その

方向でプログラム編成をしたところ、今回は研究発表だけでなく受賞記念講演も多く、23 日朝から 25 日午前中いっぱいまで全日程に発表を詰め込まないと入りきらないことが分かりました。会場の都合で夕方あまり遅くまでできないということもあり、初日の朝は 9 時から口頭発表を開始することにいたしました。通常は初日の朝の開始時間を 9 時より少し遅らせることが多いのですが、今回は発表者ならびに参加者の皆様には前泊や、当日早朝の電車による移動をお願いすることになり、ややきつかったのではないかと思います。昨年の大会が東日本大震災の影響により中止となり、2 年ぶりの学会大会ということで発表申し込みが多かったのではないかと思います。年々発表数が増加しているのも確かです。若手会員が増えて学会発表が活性化するのは喜ばしいことではありますが、このまま発表数が増えていくと従来の運営方法では難しくなりますので、今後注意してみながら運営方法を考えていく必要があるでしょう。

2 日目の午後にはエントリー以外の一般ポスター発表、総会・学会賞授与式につづき、学会賞・奨励賞の受賞記念講演会を行いました。受賞記念講演会では、昨年の大会でできなかった講演もあわせて行うことになり、最終的には学会賞 2 件、奨励賞 6 件という多数の講演が行われました。これら 8 件の講演すべてを約 2 時間という枠内で行ったため、演者のみなさんには発表時間を十分にとってもらうことができず、窮屈な思いをさせてしまったのではないかと危惧しています。このような事情で、講演会など午後のプログラムは若干後ろにずれこみましたが、夕方 6 時までには終了することができました。幸い懇親会場となった大学内の学生食堂は発表会場のすぐそばだったので、講演会終了後すぐに懇親会場へ移動し、ほぼ予定通り懇親会を始めることができました。

懇親会は 149 名(一般 106 名、学生 43 名)の参加により盛大に行われました。学生食堂を運営されているレストランのご協力により、美しく飾りつけられた豊富な料理と美酒を前にして、みな空腹に耐えかねてすぐにもなくなりそうな勢いで

したが、それを察してか、戸部博会長があいさつの中で、まず年配者に先にとってもらい若い人はその後で順番にとりましょうという言葉がありました。邑田仁先生の乾杯により懇親会が始まりましたが、皆が一斉に料理に群がることなく、和やかにかつ賑やかに進められました。料理のなかには吹田くわい保存会のご協力により、吹田グワイの天ぷらやクワイ焼酎など、ちょっと珍しいものが出され、ほろ苦いクワイを食べながら、楽しい時間を過ごすことができました。



吹田グワイの料理。

3日目の午後には、一般市民の方々も多数参加され、「市民とともに～地域の植物研究での連携と成果」というテーマで公開シンポジウムを行いました。おもに地方の博物館が中心となって、それぞれの地域で市民と一緒にいる植物

調査の活動が紹介され、具体的な質疑応答がなされました。吹田くわい保存会の北村英一会長には吹田グワイの歴史など、貴重なお話をいただきました。吹田市のケーブルテレビの取材があり、シンポジウムの様子がテレビでも放映されました。



公開シンポジウムの様子。

最後に、参加者の皆様にあらためてお礼申し上げるとともに、大会運営にご協力くださいました学会事務局の皆様、座長や公開シンポジウムの講演をお引き受けくださった先生方、さらには大会運営に直接関わってくださった関係者の皆様に心から感謝いたします。どうもありがとうございました。

2012 年度大会発表賞受賞者の決定

大会発表賞選考委員長 西田 佐知子

日本植物分類学会第 11 回大会において優れた研究発表を行った若手研究者に授与する大会発表賞は、以下の 4 名に決まりました(五十音順)

口頭発表部門

福島 健児(総研大・基生研)

「食虫植物ムラサキヘシソウにおける杯葉の発生メカニズム」

山本 武能(京都大院・理)

「ニガキ科(ムクロジ目)の生殖器官の発生学的研究:特に閉塞組織の進化に関して」

ポスター発表部門

小栗 恵美子(首都大・牧野標本館)

「小笠原諸島固有種ムニンハナガサノキ(アカネ科)の起源と性表現の進化過程を探る」

加藤 将(神戸大院・理)

「オオシャジクモ種内(シャジクモ目シャジクモ科)の新規系統に関する分類学的研究」

昨年の大会では実際の発表ができなかったせいか、第 11 回大会の大会発表賞にはたくさんの方がエントリーされました。例年同様今回の大会発表賞も、パーマネント・ポストに就いていない若手研究者の学会員で、筆頭発表者かつ演者であり、申込時に大会発表賞へのエントリーを希望した人を対象にしています。口頭発表部門には 17 名、ポスター発表部門には 36 名の方がエントリーされ、とくにポスター発表のエントリーが非常に多く、とうとう全選考委員が全エントリーの発表を審査することは断念しました。審査は、会長、評議員からなる 11 名の選考委員が、口頭発表については対象となるすべての発表を、ポスター発表については 4 つのグループに分けたエントリーのうち 2 つのグループの発表(グループの組み合わせをずらすことで、選考者の基準が 2 群に別れることがないように工夫し、かつ、いずれの発表部門も利害関係のある発表を除いて)審査し、研究内容 5 点、発表のうまさ 3 点(ポスターの場合は視認性の良さやわかりやすさ)の合計 8 点満点で評点をつけ、評点の平均点をもとに委員の合議で受賞者を決定しました。

今年エントリーされた発表の多くは、自分のテーマにまっすぐ向きあった研究であることが伝わってくる、審査しがいのある優れたものでした。その中でも今回の受賞者は、自分の研究テーマを深く掘り下げていると感じられる発表をされていたと思います。なお選考委員会からは、受賞者や今後の大会でエントリーされる方に 2 つのメッセージがあります。ひとつは、できるならば研究結果を分類学的な貢献にも結びつけてほしいということ。もうひとつは、「植物分類学会で発表すべき研究とはなにか」を改めて考えて発表に臨んでほしいということでした。選考には、委員はもとより学会幹事や大会準備委員会に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

大会発表賞受賞者 喜びの声

編集人(以下、編):こんにちは。先日の第 11 回大会での発表賞受賞おめでとうございます。まず、みなさん簡単に自己紹介をお願いします。

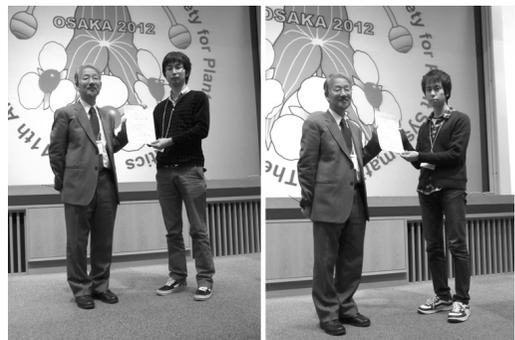
福島:総研大・基礎生物学研究所で、5 年一貫博士課程に在籍している福島です。私は新奇形質の進化に関心を寄せています。現在は食虫植物を材料に、袋状の葉を作るメカニズムや消化酵素の起源に焦点を当てて研究を行っています。

山本:京都大学大学院理学研究科博士後期過程 2 年の山本です。私は植物の“かたち”の多様性とその進化に興味を持っていて、現在は被子植物、特にムクロジ目の雌雄生殖器官(雄しべ、雌しべ、種子)に関して、その内部形態の発生学的な特徴が分類群によってどのように異なっているのか、またそれらの違いがどのように進化してきたのかを明らかにしようと考えています。

小栗:首都大学東京・牧野標本館、特任研究員の小栗です。私は小笠原諸島に自生する植物の起源地を明らかにするために分子系統学的手法を用いた研究を行っています。さらに、

小笠原植物の中には、祖先種が小笠原に辿り着いてから花の性表現を変化させたものが存在するので、得られた系統樹をもとに性表現の進化的変化を推定することも行っています。

加藤:神戸大学坂山研でポスドク 1 年目の加藤です。学部生のころからずっと、シヤジクモという多細胞性の大型緑色藻類の系統分類・進化生物学を専門に研究しています。



発表賞受賞者(左:福島さん、右:山本さん)

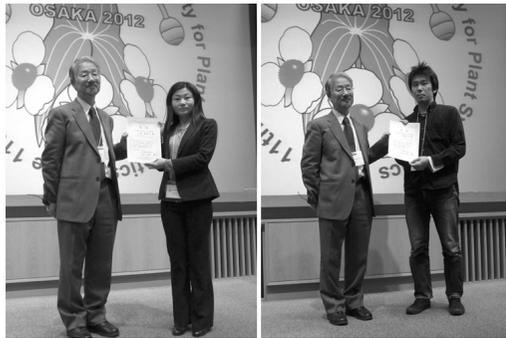
編:では早速、受賞が決まったときの率直な感想をお願いします。

福島：居酒屋での食事中に第一報を受けました。ビールが一層おいしく感じられましたから、きつ舌の末梢神経まで活性化されるほど嬉しかったのだと思います。

山本：知らせを受けてすぐはとても驚いたのですが、全然実感がわきませんでした。でも、下宿に帰って一人になってから、やっと嬉しさが込み上げてきました。

小栗：驚きました。私は求職中なので発表賞はエントリーしないといけななと思っていただけですし、ポスター発表賞にエントリーした人が36名もいるので、まず無理だと思っていました。今は、受賞歴が一つ増えたのでとても嬉しいです。

加藤：出身研究室の先輩である慶応大の仲田先生が初日の飲み会になかなか現れないので電話してみたら、突然「おめでとう」と言い出したので意味がわかりませんでした。率直に驚きました。



発表賞受賞者(左:小栗さん, 右:加藤さん)

編：今回はエントリー人数が多く、その中から皆さんの発表が評価されたわけですが、では発表に際して特に工夫した点を教えてください。

福島：そうですね、形態の研究というだけでもスライド平面での表現が難しくなるのですが、それに輪をかけるようにややこしい形をした葉の発表だったので、デフォルメしたモデル図を多用するよう心掛けました。

山本：発表内容が植物の生殖器官の内部形態とその発生、という多少マニアックな内容で、耳慣れない単語が多くなってしまったので、それらをなるべく分かりやすく説明出来るように注意しました。またそれに伴ってなるべく図を多用し、視覚的な理解がしやすいスライドを作成出来るように努力しました。

小栗：正直、受賞狙いで工夫した点はありません

でした。今まで通りのスタイルでポスターを作成しただけなんです。ただ、私はポスターを見るだけで「この人は何を、何を明らかにしたのか」が分かるような、説明文は少ないけれどもインパクトのあるポスターを作ることを第一に心がけました。また、研究材料の植物が分からない人もいると思うので、たとえ花の写真をもっていなくてもその植物の特徴がわかる写真をたくさん載せました。

加藤：いつもそうなのですが、“一目瞭然に図で示したい”を念頭に置いています。特に今回は、普通、論文では複数の図や表に分けて示す情報を一つの図としてまとめてみました。発表を聴きにきて下さった方の中には「見ていて疲れなくて楽しい」とおっしゃって下さった方もいて非常に嬉しかったです。

編：なるほど、ではスライドやポスターを作るうえで苦勞した点を教えてください。

福島：立体的なモデル図をどのように描画すればいいのかかわからず、その点が大変苦勞しました。3D グラフィクスソフトの使い方を覚えようと入門書まで買ったのですが、結局挫折してしまい、パワーポイントで無理矢理作りました。学生の懐に4,800円の書籍費は結構な打撃だったので、その入門書を無駄にしないためにもこれから勉強したいと思います。

山本：一番大変だったのは、やはり発表時間を12分以内に収めることです。実際にスライドを作ってみると、言いたいことの多さに対して予想以上に発表時間が短くて、発表の前日まで何度もストーリーを練り直しました。それと苦勞とはちょっと違うのかもしれませんが、外部の方々に向けて口頭発表を行うのは今回が初めてだったので、非常に緊張して本番中に声や膝が震えないようにするのが大変でした。

小栗：花の性表現の進化的変化をどのように示せば説得力のあるものになるのか考えた点が一番苦勞しました。先行研究のデータを図式化させて視覚的にわかるようにしたつもりでしたが、ちゃんとポスターを聞きにきてくださった方に理解していただけたか心配です。

加藤：今回の発表は、藻の分類という見渡す限りのなかでもマニアックな内容でしたので、どうすればまず立ち止まってもらえるかに悩みまし

た。とりあえず遠くからでも目を引くくらいに、とにかく綺麗で大きい写真を載せてみました。

編: それでは、最後に今後の夢や研究の展望をお聞かせください。

福島: 食虫植物熱をこじらせてかれこれ 8 年ほど経ちますが、回復の兆しは見ていません。もうしばらくは現在の研究材料と付き合い続けることになると思いますが、本来のモットーは「不思議だと思った生物をそのまま研究対象に」です。と、大見得を切っておいて“非モデル植物だから”を免罪符にするのではあまりにも格好がつかないので、目的達成に必要とあらばどんな植物でもゲノムを読み、どんな植物でも順遺伝学を使い、どんな植物でも形質転換する、という覚悟で研究対象と向き合っていきたいと思っています。

山本: 私が植物の内部形態を研究している理由の 1 つに“切片が好きだから”という事が挙げられます。綺麗な切片を作成して、初めて顕微鏡を覗く瞬間が自分の研究活動の中で最も好きな瞬間の一つです。ですから今後もこの切片作成を武器に、将来的には被子植物にとどまらず様々な植物の生殖器官の内部形態を観察し、植物の生殖器官における“かたち”の多様性とその進化の全容解明に貢献出来るような研究を行なっていきたいと考えています。

小栗: 今回はアカネ科やエヤマアオキ属に関する研究報告をさせていただきましたが、現在、私は専門分野のコケ植物、シダ植物も材料に用いて小笠原植物の起源地推定を行っております。胞子と種子という散布体の違いや風、鳥、虫など散布様式の違いに着目して、小笠原植物の進化過程を一般化できたらいいなと思っています。そのためにも、より多くの起源地候補地でのサンプリングを行わなければなりません。特に、フィリピンと中国南東部には近い将来調査に行ってみたいです。

加藤: 私は車軸藻目藻類、いわゆるシャジクモ類全てを見渡した系統分類学的整理を少しでも完成に近づける作業とともに、その中の特定の系統をモデルとした進化生物学的研究を行っていきたくと考えています。シャジクモ類の中には近縁種間で世界中の様々な水環境に適応し生育する系統や、倍数性起源と見られる複数種で構成される系統など、種分化研究にとって興味深いにもかかわらず手がつけられていないものが多くあります。これらを一ずつ解明して、車軸藻学にとどまらず生物学全体に貢献できるような研究を行っていきたくと思います。

編: 本日はどうもありがとうございました。みなさんの今後の活躍を期待しています！

庶務報告(2012年2月~4月)

庶務幹事 西野 貴子

環境省からの委託業務「平成 23 年度絶滅危惧植物の分布状況等調査業務」についての業務終了報告書を提出した(4月3日)。

会費納入はお済みですか？

- ・会費は前納制です。
- ・まだ納入されていない方は至急納入ください。
- ・適正な学会運営のために、皆様のご協力をよろしくお願いします。
(金額、振込先は最後ページをご覧ください)
- ・なお、長期滞納者に対しては、規約第 10 条(2)に基づき、除名を行っております。
- ・ご不明の点があれば、会計幹事までご連絡ください。

2012 年度第 1 回評議員会議事抄録

庶務幹事 西野 貴子

会場: 京都大学理学部 2 号館 113 号室

日時: 2012 年 3 月 22 日 16:00~20:15

参加者

評議員:()内は被委任者

出席[12 名]: 西田 佐知子, 秋山 弘之, 五百川 裕, 大村 嘉人, 角野 康郎, 瀬戸口 浩彰, 副島 顕子, 仲田 崇志, 藤井 伸二, 藤井 紀行, 村上 哲明, 遊川 知久

委任状出席[0 名]: なし

幹事会・委員会委員長:()内は役職

出席[10 名]: 戸部 博(会長), 西野 貴子(庶務), 保坂 健太郎(会計), 鈴木 武(図書), 東 浩司(ニュースレター), 永益 英敏(編集委員長・英文誌編集), 西田 佐知子(和文誌編集), 西田 治文(自然史学会連合), 岡崎 純子(講演会), 田村 実(野外研修会), 角野 康郎(絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会), 伊藤 元己(植物データベース専門委員会)

欠席[4 名]: 福原 達人(HP), 樋口 正信(絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会), 高宮 正之(学会賞選考委員長), 梶田 忠(植物分類学関連学会連絡会・日本分類学会連合)

1. 評議員会開催にあたり, 戸部会長から挨拶があった。
2. 西野庶務幹事により, 定足数が確認された。会長, 評議員 12 名全員の出席があり, 評議員会は成立した。
3. 評議員会議長として角野康郎氏が, 議事録署名人として瀬戸口浩彰氏, 秋山弘之氏の 2 名が選出された。
4. 報告事項
 - 4.1. 自然史学会連合関連報告 2011 年度活動報告および 2012 年度活動計画。
 - 4.2. 日本分類学会連合報告 2011 年度活動報告および 2012 年度活動計画。
 - 4.3. 植物分類学関連学会連絡会報告 2011 年度活動報告および 2012 年度活動計画。
 - 4.4. 各種委員会に関する報告
 - (1) 編集委員会 英文誌『APG』および『分類』の編集状況。
 - (2) 学会賞選考委員会 日本植物分類学会賞の選考経過と課題。
 - (3) 論文賞選考委員会 日本植物分類学論文賞の選考経過と課題。
 - (4) 植物データベース専門委員会 現状説明と活動報告。
 - (5) 絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会および専門第二委員会 現状説明と活動報告。
 - (6) 国際植物命名規約(メルボルン規約)邦訳委員会 現状説明と活動報告。
 - 4.5. 図書関連報告 寄贈雑誌・交換状況の説明。
 - 4.6. 日本植物分類学会講演会報告 2011 年度実施, 2012 年度準備状況。
 - 4.7. ニュースレターに関する報告 2011 年度実施, 2012 年度準備状況。
 - 4.8. ホームページ・メーリングリスト関連報告 学会公式 HP および ML の運用状況。
 - 4.9. 会務報告 2011 年度の事業報告。
 - 4.10. 会計報告 2011 年度の会員状況, 会費納入状況。
 - 4.11. その他
 - (1) 野外研修会について 2011 年実施報告。
 - (2) 次期会長・評議員の選出について 選挙の準備状況。
5. 審議事項
 - 5.1. 2011 年度事業報告(案)について
西野庶務幹事より, 2011 年度事業報告(案)が提案され, 質疑後, 2 項目の修正が行われた後に承認された。
 - 5.2. 2011 年度決算報告(案)について
保坂会計幹事より, 2011 年度決算報告(案)が提案され, 質疑後, 1 項目の修正が行われた後

- に承認された。
- 5.3. 2012 年度事業計画(案)について
西野庶務幹事より、2012 年度事業計画(案)が提案され、質疑後、2 項目の追加・修正が行われた後に承認された。
- 5.4. 2012 年予算案に関する 2011 年第 3 回メール評議員会での保留審議事項について
戸部会長より、特別会計の予算内容にかかわる第 3 回メール評議員会での審議保留事項について説明があり、質疑後、承認された。
- 5.5. 2012 年度予算(案)について
保坂庶務幹事から 2012 年度予算(案)が提案され、質疑後、2 項目の修正が行われた後に承認された。
- 5.6. 英文紙や会費に関する 2011 年第 3 回メール評議員会での保留審議事項について
戸部会長より、英文紙や会費に関する第 3 回メール評議員会での審議保留事項について説明があり、質疑後、承認された。
- 5.7. 名誉会員の推薦について
戸部会長より、会則第 5 条に基づき会員 11 名を名誉会員候補として、総会に推薦することが承認された。
- 5.8. 除名について
戸部会長より、4 年分以上の会費を滞納している会員 19 名の除名について提案があり、審議の結果、承認された。
- 5.9. 次期会長、評議員の選挙について
戸部会長より、選挙時期と次期会長候補の評議員会推薦を行いたいという提案があり、メール評議員会が行われることになった。
6. その他
- 6.1. 第 12 回大会開催地について
戸部会長より説明があり、綿野泰行氏(大会会長:千葉大学)のお世話により千葉市において開催されることが承認された。
- 6.2. 日本植物分類学会創立 10 周年記念事業について
戸部会長より、記念出版物について進行状況の説明があった。
- 6.3. 総会議事について
西野庶務幹事より、2012 年度総会議事次第(案)説明され、承認された。

2012 年度総会議事抄録

庶務幹事 西野 貴子

会場:大阪学院大学 2号館 B1-02 教室

日時:2012 年 3 月 24 日 14:00~15:00

1. 総会に先立ち戸部会長から挨拶があった。
2. 林一彦大会会長から挨拶があった。
3. 逝去された学会員への黙祷が捧げられた。
4. 西野庶務幹事より総会出席者が 82 名(後に 86 名)であることが報告された。
5. 角野康郎氏が総会議長に選出された。

6. 報告事項

6.1. 会務報告

西野庶務幹事より、報告内容は第一号議案と同じであるので議案審議の際に報告するとの説明があった。

6.2. 会員数について

保坂会計幹事より、減少傾向にはあるものの会員数は前年度と較べて大きな変動がないことが説明された。

6.3. 各委員会からの報告

・編集委員会

永益編集委員長から、APG の発刊の大幅な遅れがあること、遅れは掲載論文数が激減していることに起因していることの説明があった。また、2012 年 4 月より編集委員長が田村実氏(京都大学)に交替することが報告された。

・絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会

角野委員長から第 3 次レッドリストの見直しのための現地調査が行われ、評価選定リスト案と報告書を作成し、環境省へ提出した旨の説明があった。

・絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会

樋口委員長に代わり、ひきつぎ角野第一委員長から第一委員会と同様の状況で、第一号議案の 2011 年度事業報告にも報告があるとの説明があった。

・植物データベース専門委員会

伊藤委員長から APGIII に準じた科の和名を整理中であることが報告された。

・国際植物命名規約(メルボルン規約)邦訳委員会

永益委員より、大橋委員長を中心に委員会が組織され、2013 年の邦訳出版にむけて順調に作業が続いているとの説明があった。

・学会賞選考委員会、論文賞選考委員会、大会発表賞選考委員会

総会後の表彰式で審査結果の報告を行うことが説明された。

6.4. 除名について

戸部会長より、会則第 10 条にもとづき以下の 19 名について除名を行ったとの報告があった。

高杉 茂雄, 田中 正明, 西村 玲子, 別府 敏夫, 茂垣 はるえ, 増田 浩, 平賀 敬夫, 香川 正行, 笹村 和幸, 田村 茉莉子, 鎧 礼子, 向山 貴幸, 庄司 顕則, 伊藤 繁厚, 岩崎 健, 五十畑 貴生, 藤原 健人, 田川 哲, 宮 ならう。

7. 審議事項

7.1. 第一号議案 2011 年度事業報告, ならびに 2011 年度決算報告書の承認の件

前年度の事業報告と決算報告が西野庶務幹事と保坂会計幹事よりそれぞれ行われた。吹春監事より、会務および会計が適切に行われているとの監査報告があった。

審議の結果、賛成 86 票, 反対 0 票で、出席者全員(86 人)より承認された。

7.2. 第二号議案 2012 年度事業計画, ならびに 2012 年予算案承認の件

西野庶務幹事と保坂会計幹事より上記二件について説明があった。

審議の結果、賛成 86 票, 反対 0 票で、出席者(86 人)の 3 分の 2 以上をもって承認された。

7.3. 第三号議案 名誉会員の推薦について

会則第五条に基づき、次の 9 名の方が名誉会員に推薦された。

稲野 藤一郎, 大野 正男, 大場 秀章, 小山 博滋, 杉野 孝雄, 西村 直樹, 野坂 志朗, 堀田 満, 山中 雅也。

審議の結果、異議なく承認された。

8. その他

8.1. 第 12 回大会開催地について

戸部会長より、次回第 12 回大会についての告知がなされ、綿野次期大会会長より挨拶があった。

8.2. 野外研修会について

田村委員より告知があり、世話人の五百川裕氏(上越教育大)から挨拶があった。

8.3. 日本植物分類学会創立 10 周年記念事業について

戸部会長より、『新しい植物分類学 I』の出版の告知と、『新しい植物分類学 II』と『植物分類学マニユアル』の進行状況の説明があった。

8.4. 選挙について

戸部会長から、役員等の引継ぎを円滑に進められるように次期会長、および評議員の選挙を 6 月に行うとの説明があった。

2012 年度事業計画および予算

庶務幹事 西野 貴子

(1) 集会等の開催

・学術集会, 講演会, 野外研修会

年次学術集会(日本植物分類学会第 11 回大会:3 月 22-25 日, 大阪学院大学)を開催する。

2012 年度講演会(12 月 22 日, 大阪学院大学)を開催する。

2012 年度野外研修会(9 月 21-23 日, 新潟県妙高山麓)を開催する。

・総会, 評議員会

年次総会を年次学術集会に合わせて開催する(3 月 24 日)。

評議員会を開催する(3 月 22 日)。

(2) 出版物の刊行

・学会誌の発行

英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 62 巻 2-3 号, および第 63 巻 1-3 号(計 5 冊)を発行する。

和文誌『分類 [日本植物分類学会誌]』第 12 巻 1-2 号(計 2 冊)を発行する。

・ニュースレター『日本植物分類学会ニュースレター』44-47 号(計 4 冊)を発行する。

・植物分類学関連本の出版を行う。

(3) 委員会活動

以下の委員会を組織し, 目的に沿って活動する。

・絶滅危惧植物・移入植物専門第一および第二委員会

・植物データベース専門委員会

・学会賞選考委員会

・大会発表賞選考委員会

・論文賞選考委員会

・国際植物命名規約(メルボルン規約)邦訳委員会

・普及のための教育委員会(仮称)の設置

(4) 表彰

日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)の授与を行う。

日本植物分類学会大会発表賞の授与を行う。

日本植物分類学会論文賞の授与を行う。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

国内学会連合等への参加・連携を行う: 日本学術会議、植物分類学関連学会連絡会、自然史学会連合、日本分類学会連合など。

The Korean Society of Plant Taxonomist (KSPT), および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC)と連携する。

第 13 回国際花粉学会議・第 9 回国際古植物学会議合同会議(2012 年 8 月 23~30 日中央大学), 牧野富太郎博士生誕 150 年記念展『植物学者・牧野富太郎の足跡と今』(2012 年 6 月 16 日~9 月 23 日:高知県立牧野植物園, 2012 年 12 月 22 日~2013 年 3 月 17 日:国立科学博物館本館), 微生物データベースの将来に関するフォーラム(2012 年 5 月 28 日:玉川大学)などへ協力を行う。

(6) 次期会長、次期評議員の選出

会長・評議員の選挙を行う。

(7) その他

学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行う。

植物分類学関連情報(学術集会、研究動向、出版物、公募)を収集し、ニュースレター、ホームページ等で提供する。

学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行う。

2012年度予算

収入の部	単価	数	予算	前年度予算との差異	
会費					
通常(一般)	5000	755	3775000	△ 150000	注1
通常(学生/海外)	3000	91	273000	△ 27000	注1
団体会員	8000	26	208000	△ 8000	注1
バックナンバー販売			100000	0	
命名規約販売			20000	0	
利息			500	480	注2
雑収入			50000	0	
合計			4426500	△ 184520	

支出の部

大会補助費			100000	0	
講演会補助費			50000	0	
出版物印刷費					
APG vol.62(2,3), 63(1,2,3)	650000	5	3250000	650000	注3
分類vol.12(1,2)	550000	2	1100000	100000	
ニュースレターNo.44-47	55000	4	220000	0	
英文校閲費			100000	40000	注4
出版物送料					
APG送料	80	5500	440000	88000	注3
和文誌送料	80	2000	160000	0	
NL送料	60	4000	240000	0	
会議費			50000	0	
学会賞表彰経費			60000	0	
自然史学会連合負担金			20000	0	
分類学会連合負担金			10000	0	
事務局管理費					
消耗品費			50000	0	
交通費			100000	0	
アルバイト賃金			300000	0	
封筒等印刷費			0	△ 250000	注5
通信費(小包手数料を含む)			70000	0	
手数料・その他			30000	0	
自動振替集金代行基本料			3150	0	
自動振替口座確認手数料	126	170	21420	△ 2520	注6
自動振替新規手数料			0	0	注7
レンタルサーバー使用料			20000	5000	注8
国際シンポジウム積立金			300000		注9
予備費			150000	50000	注10
合計			6844570	680480	

単年度収支	△ 2418070
APG62(2,3)を除いた単年度収支	△ 942070
前年度からの繰越金	10121805
次年度への繰越金	7703735

注1:会員数見直しによる(名誉会員増, 退会・除名・逝去など)

注2:2011年度に合わせて変更

注3:2011年度未発行分(vol62 no.2,3)を含める

注4:2011年度未払い分をまとめて支払うため

注5:新たな印刷は必要ないため

注6:自動振替サービス利用者数変更による

注7:新規手数料がかからなくなったため

注8:一部プラン変更に伴う料金変更

注9:2013・2014年度とも30万円を計上予定

注10:会長・評議員の選挙費用および受賞者招へい経費を含む

特別会計 2012年度予算(案)

収入

	2012年度予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金	2196011	0	注1
国際シンポジウム積立金	300000		
利息	0	0	
合計	2496011	300000	

支出

命名規約和訳出版	200000	200000	注2
国際シンポジウム準備金	0		
次年度への繰越金	2296011		
合計	2496011	300000	

注1: 一般会計から移管。2013・2014年度とも30万円を移管予定。2014年に90万円支出予定。

注2: 2013年度は160万円を計上予定

お知らせ

2012 年度日中韓合同国際シンポジウムについて

日中韓合同国際シンポジウム担当 村上 哲明

日本・中国・韓国の 3 国の持ち回りで毎年開催されることになった植物分類学・合同国際シンポジウムは、第 1 回を 2008 年 8 月に日本(札幌)で、第 2 回を 2009 年 10 月に中国(北京)で、第 3 回は 2010 年 8 月に韓国(ソウル)で開催されてきました。そして昨年(2011 年)3 月に、再び日本(つくば)で East Asian Botany: International Symposium 2011 として開催される予定でした。しかし、ご存じの通り、東日本大震災の影響で要旨集による発表のみとなってしまいました。あれから 1 年あまりが過ぎましたが、外国から見て、日本国内の状況はまだまだ不安定でしょうから、今年度は日本の次の順番の中国で開催していただけるようお願いをしました。

というわけで、2012 年度の日中韓合同国際シンポジウムは、中国のハルビンで 8 月 22 日～23 日に、同時期に開催予定の "Biodiversity Conservation: New Challenges and Novo Strategies (<http://biodiv10.csp.escience.cn/dct/page/1>) の会合の中で開催されます。今年度の合同国際シンポジウムのテーマ(仮題)は、"DNA barcoding plant diversity"だそうです。ただし、この「DNA バーコーディング」というのは、狭い意味ではなくて、植物の分子系統解析や、DNA 情報を使った隠蔽種・絶滅危惧種・外来種などの同定、あるいは次世代シーケンサーを活用した植物の多様性の把握などを含む幅広い研究を対象とするとのこと。参加申込みと発表要旨の締切は、2012 年 8 月 10 日となっています。問い合わせ連絡先は Xuehong Xu 博士 (E-mail: strawberry@ibcas.ac.cn) と Yinnan Liu 博士 (E-mail: liuyingnan@163.com) です(19 ページの英文案内もご覧下さい)。

日本からは 10 名程度の研究者がこの合同国際シンポジウムに参加して、発表する予定であると伝えてあります。特に大学院生やポスドクなどの若手研究者の皆さんにとっては、招待講演を海外で行ったという業績にもなりますし、何より中国や韓国の若手研究者と知り合いになって、将来、国際共同研究等をするきっかけにもなると思います。また、例年、参加費と現地での滞在費は無料にしてくださっています。奮って参加していただければ幸いです。なお、日本からの参加者の情報は取り纏めたいと考えておりますので、特に発表を予定しておられる方がいらっしゃいましたら、その旨を 6 月 30 日までに担当委員の村上哲明 (nmurak@tmu.ac.jp) にお知らせいただければ幸いです。

2012 年度野外研修会のお知らせ

五百川 裕(上越教育大学)

「妙高山麓の植物」

日程: 2012 年 9 月 21 日(金) ~ 9 月 23 日(日)

- 第 1 日目(21 日): 13:30 に JR 妙高高原駅前集合。自家用車分乗で妙高山麓池の平へ移動。妙高高原ビジターセンター、カヤバ草原、いもり池周辺で植物観察。燕温泉(標高約 1,100m)へ移動。宿泊。入浴、夕食後、妙高山の植物について紹介・懇談会。
- 第 2 日目(22 日): 妙高山登山グループ(健脚向き)と笹ヶ峰高原散策グループに分かれて行動。妙高山登山グループは、早朝に登山開始、登り 4 時間半、下り 3 時間、山頂標高 2,454m。笹ヶ峰散策グループは、自家用車分乗で笹ヶ峰高原(標高約 1,300m)へ移動、関川源流のブナ帯上部域を散策し植物観察。夕方、赤倉温泉(上越教育大学赤倉野外活動施設)に移動。入浴、夕食後、研修成果報告会?。
- 第 3 日目(23 日): 自家用車分乗で苗名滝に移動。溪畔林を散策し植物観察。妙高高原駅に移動し 12:30 までに解散予定。

今年度の野外研修会は日本海側多雪地に聳える名峰の一つ妙高山(山頂標高 2,454m)を会場として行います。頂部のカルデラは標高がおよそ 2,000m 以上あり、カルデラ底部の湿地から中央火口丘の山頂にかけては、ヨツバシオガマ、ハクサンコザクラ、ウサギギク、ウスユキソウなど高山植物が生育します。それより下部では、オオシラビソが優占する針葉樹林も一部に見られますが、山麓の多くはブナ林と、その自然あるいは人為的な攪乱地にミズナラやダケカンバ、シラカバなどが優占する林となり、日本海側山地では多く見られるシラネアオイ、ノウゴウイチゴ、チョウジギクなども生育します。山麓にはスキー場も多く、ゲレンデとするため野焼きや草刈りによって維持されている草原の一部では、近年、野生では少なくなったキキョウやオミナエシなどが見られます。開催時期が秋ですので、アザミやトリカブトの仲間を勉強するのに適した季節です。妙高山をタイプ産地として記載されたミウコウアザミやミウコウトリカブトをご一緒に勉強できたらとも考えています。

参加費用(妙高高原駅到着から解散までの宿泊、朝夕の食事代、交通費など):
20,000 円程度(当日に集金させていただきます)

申し込み: 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町 1 番地
上越教育大学学校教育学系 五百川 裕 宛
TEL&FAX: 025-526-2755 E-mail: iokawa@juen.ac.jp

できるだけメールでお申し込みください。申し込みの際には、氏名、性別、連絡先住所、電話番号、メールアドレス、妙高高原駅までの交通手段(電車、自家用車等)を明記ください。8 月 31 日までを目処として、申し込み順に 20 名程度で締め切らせていただく予定です。宿泊施設の定員の関係ですので、ご了承ください。

編集室より

情報提供・寄稿のほか叱咤激励を歓迎します。ご連絡は下記まで。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 植物学系 植物系統分類学

東 浩司 075-753-4125 (TEL&FAX) azuma@sys.bot.kyoto-u.ac.jp

2012 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 岡崎 純子

平成 24 年度の日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦先生に会場をお世話頂いて、次のとおり開催します。詳細につきましては次号のニュースレターでご案内いたします。

【日時】 2012 年 12 月 22 日(土) 午前 10 時～午後 4 時 40 分

【講演会場】 大阪学院大学

〒564-8511 大阪府吹田市岸辺南 2 丁目 36 番 1 号(電話:06-6381-8434)

【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅、阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分。

http://www.osaka-gu.ac.jp/p_student/index.html の「キャンパス案内」から「交通アクセス」をご覧ください。

日本植物分類学会第 12 回大会のお知らせ

日本植物分類学会第 12 回大会会長 綿野 泰行

日本植物分類学会第 12 回大会を、下記の通り、千葉大学西千葉キャンパスにおいて開催します。大会および参加申し込み等の詳細は、大会ホームページおよび第 47 号のニュースレターでお知らせします。

【会場】 千葉大学 けやき会館 (千葉市稲毛区弥生町 1-33)

【日程】 2013 年 3 月 14 日(木):各種委員会, 評議員会(千葉大学西千葉キャンパス)

3 月 15 日(金)～16 日(土):研究発表, 総会, 受賞講演, 懇親会など

3 月 17 日(日):研究発表, 公開シンポジウム

【ホームページ】 <http://bean.bio.chiba-u.jp/jsps2013>

【問い合わせ先】 日本植物分類学会第 12 回大会準備委員会

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

千葉大学理学部生物学科 梶田 忠(大会準備委員長)

Tel: 043-290-2818, Fax: 043-290-2874; E-mail: tkaji@faculty.chiba-u.jp

第 13 回国際花粉学・第 9 回国際古植物合同会議のご案内

大会実行委員会副委員長 西田 治文

かねてご案内のとおり、本年 8 月 23 日(木)～30 日(木)に、標記国際会議(XIII IPC/IX IOPC)を中央大学理工学部(後楽園キャンパス)にて開催いたします。すでに参加登録は始まっており 5 月末には締切りますが、4 月末の時点で海外参加者のみで 400 名を超える登録があり、盛会となることを期待しています。花粉と古植物関連の国際会議は、日本で初の開催ですし、次回はかなり先のこととなるかもしれません。分子と化石は現代の系統分類には欠かせない相互検証ツールです。是非興味のあるテーマには参加していただけることを願っています。

当日参加の場合の条件はHPにて近くお知らせします。

大会HP: <http://www.psj3.org/ipc-iopc2012/Welcome.html>

寄稿

学名のラテン語(10)

永益 英敏(京都大学総合博物館)

種と種内分類群の学名の形容語—形容詞 1

種の学名の形容語には文法的にさまざまなものがあり、それを規定しているのが次の条項である。

第 23.1 条

種の学名は、属名とその後に続く 1 つの種形容語 *specific epithet* とから構成される二語組合せである。種形容語は 1 つの形容詞、属格の名詞、または属名と同格の単語であるか、あるいは数個の単語であるが、奪格の 1 つまたはいくつかの記載的名詞と形容詞の組合せによる *phrase name* でもなく(第 23.6 条(a)をみよ)、他の不規則に作られた名称でもない(第 23.6 条(c)をみよ)。...[後略]

種の形容語が形容詞である場合には、その形容詞は属名と文法的に一致させなければならない(第 23.5 条)。属名は主格単数名詞(第 20.1 条)であり、ラテン語は男性・女性・中性の 3 性を持っているので、それを修飾する形容詞も名詞の性によって変化させなければならないのである。

幸いなことにラテン語はかなり規則的な言語であり、形容詞の種類は基本的に、第一第二変化形容詞と第三変化形容詞の 2 つしかない。それに加えて、ギリシア語から導入され伝統的なラテン語の形容詞語尾をもたない形容詞がある。Botanical Latin (Stern 1992)では、それぞれを A 群、B 群、C 群の 3 つに分類している。ラテン語の名詞は第一変化名詞から第五変化名詞の 5 種に分類されるが、第一第二変化形容詞は第一変化名詞と第二変化名詞を組み合わせたような活用をするためこの名がある。第三変化形容詞は第三変化名詞と同様の活用をする。

第一第二変化形容詞の語尾は、基本的には男性では *-us*、女性では *-a*、中性では *-um* (いずれも単数主格)と変化する (*-us*, *-a*, *-um* 型)。例をあげると「広い」という意味を持つ形容詞 *latus* (男性)は、女性では *lata*、中性では *latum* となる。ラテン語の辞書では男性単数形が見出し語となっており、その後女性単数形、中性単数形を従えて、一般に **latus**, *a*, *um*, *adj.* のように書かれる。最後の *adj.* は形容詞 (*adjectivum*) であることを示している。また、Botanical Latin の第 25 章 Vocabulary (Stern 1992: 360–532)では、**latus** (*adj.* A)として、この単語が A 群の変化をする形容詞であることを示している。

ただし、このグループにも男性語尾が *-er* となるバリエーション (*-er*, *-(e)ra*, *-(e)rum* 型)がある。これには女性、中性形で *r* の前の *e* が落ちるものと落ちないものがあり、いずれであるかは辞書でみることができる。たとえば *niger* (黒い)は *niger* (男性)、*nigra* (女性)、*nigrum* (中性)と *e* が落ちる方で、辞書では **niger**, *gra*, *grum*, *adj.* と表示される。*tener* (柔軟な)は *tener* (男性)、*tenera* (女性)、*tenerum* (中性)と *e* を保持し、辞書では **tener**, *era*, *erum*, *adj.* である。「～を生じるもの、～を着けるもの」を意味する *-fer*, *-ger* (たとえば *stolonifer* 走出枝をもつ、*claviger* 棍棒をもつ)も後者の方である。Botanical Latin の Vocabulary では単に (*adj.* A)とあるのみで、どちらであるかは残念ながら示されていない。

厳密に言えば形容詞ではないが第一第二変化形容詞と同じ変化をし、形容詞的に用いることができるものに完了分詞と動形容詞がある。いずれも動詞から作られ、それぞれ「～された」「～されるべき」を意味する。たとえば動詞 *amo* (愛する)から完了分詞 *amatus* (愛された)、動形容詞 *amandus* (愛すべき)をつくる(例: *Rhododendron amandum* Cowan)。完了分詞は学名の形容語としては比較的多く、*contractus* (短縮した)、*reflexus* (反り返った)などの例があるが、動形容詞の例は少ない。辞書では前者は **amatus**, *a*, *um*, *p.p.* [*amo*]、後者では **amandus**, *a*, *um*, *gerundiv.* [*amo*] のように書かれ、

*p.p.*は完了分詞(participium perfectum), *gerundiv.*は動形容詞(gerundivum)であり, []の中にはもともとなった動詞の現在単数一人称が示されている。Botanical Latin では, **contractus** (part. A)として A 群の変化をする分詞(participle)であることを示すか, または **rejiciendus** (gerundive of *rejicio*)のように表示されている。勘のいい方は気づかれたであろう。学名の廃棄名(廃棄されるべき学名) *nomen rejiciendum*, 保存名(保存されるべき学名) *nomen conservandum* に用いられているのは, この動形容詞である。

第一第二変化形容詞

属の性	i) -us, -a, -um 型	ii-a) -er, ra, rum 型	ii-b) -er, -era, -erum 型
男性	japonicus	niger	stolonifer
女性	japonica	nigra	stolonifera
中性	japonicum	nigrum	stoloniferum

Stern, W. T. 1992. Botanical Latin, 4th ed. David & Charles, Newton Abbot Devon.

書評

奈良県樹木分布誌

森本 範正 著, 284 pp, 2012 年 2 月発行, 自費出版

20 年間に及ぶ調査研究の集大成。退職後にはじめたというから, そのエネルギーに驚いてしまう。内容とその特徴は, メッシュ分布図(2.5 万分の一地形図を 1 メッシュとした合計 49 メッシュ), 300m 毎に区分した標高分布図, 解説文, 主な標本のリストを, ほぼ全樹種について掲載している点である。圧倒的なデータ量であることは言うまでもない。氏が奈良県から発見・報告したキリシマミズキやミヤマウメドキをはじめ, チョウセンゴミシ, ミヤマタタビ, キビノクロウメドキなどが掲載されており, 植物地理学上重要な植物種の記録に絶句してしまう。信頼性の高い基礎資料の完成は, 今後の奈良県の植物地理研究を大きく前進させるだろう。

巻末の樹木分布についての試論も興味深い。植物分布境界線の「曾爾—野迫川線」は中央構造線に一致するだけでなく, 気候の明瞭な境界線でもあることを私は本書で知った。この線を挟んだ南北で, 400mm 以上の年降水量の劇

的变化が存在する。同様の分布図が西日本全域で作成されれば, 気候要因に基づくニッチモデリングによって襲速紀要素の再検討が可能になるはずだ。

個人印刷物のため非常に廉価だが, 書店での入手は不可。早めの購入をお薦めする。

購入方法: 氏名・郵便番号・住所・電話番号・購入冊数を明記の上, 葉書またはファックスで下記宛に申し込む。代金は, 書籍到着後に同梱された振替用紙にて支払う。

〒632-0047

天理市乙木町 559-9 森本 範正

Fax: 0743-66-0273

1 冊 1,760 円(送料込み)

(藤井伸二 人間環境大学・環境保全)

East Asian Plant Diversity and Conservation**DNA Barcoding the Biodiversity****22-23 August, 2012, Harbin, China**

The symposium “East Asian Plant Diversity and Conservation” was initiated in 2007 by the societies of plant taxonomy and evolution from Japan (Japanese Society of Plant Taxonomists), China (Taxonomy and Evolution Division of Botanical Society of China) and South Korea (Korean Society of Plant Taxonomists). The symposium aims to provide a forum to share and discuss the latest developments in the field of plant taxonomy and evolution as well as plant biodiversity research and conservation, and to promote the exchange of scientific information among researchers and students in East Asian countries.

The topics of the symposium 2012 will focus on DNA barcoding plant diversity. Phylogeny of plants, identification of cryptic species, invasive species, rare and endangered species using the DNA barcoding technology will be covered. Other applications of the technology such as dynamics of environmental biodiversity revealed by Next-Generation Sequencing methods (NGS) will also be considered.

The symposium will be nested within the conference “Biodiversity Conservation: New Challenges and Novo Strategies”. All participants of the symposium are welcome to the conference if interested. Please visit <<http://biodiv10.csp.escience.cn/dct/page/1>> for update of the symposium and the conference and contact the persons below for more information.

1. Deadline for response and abstract: Aug. 10, 2012
2. Contacting person

Xuehong Xu

20 Nanxincun, Xiangshan, Beijing 100093, China

Tel: 86-10-62836603; Fax: 86-10-82591781

E-mail: strawberry@ibcas.ac.cn

Yinnan Liu

Institute of Nature and Ecology, Heilongjiang Academy of Sciences

103 Haping Road, Xiangfang, Harbin 150040

Heilongjiang, China

Tel & Fax: 86-451-86664613

E-mail : liuyingnan@163.com

14 ページに本シンポジウムに関する記事があります。

